

第4章 民俗

橋場万里子「東京都多摩市域の大山信仰―神酒杵と木太刀奉納―」

江戸時代の名主の日記から大山信仰における神酒杵および木太刀奉納の具体的な事例を取り上げている。

小野一之「大山が見える、大山に行く―東京都府中市域の大山信仰―」

府中市域の人々にとって「見える山」であり「行く山」であった大山の信仰が、社会の変貌の中で継承、衰退していく過程を考察している。

榎本直樹「埼玉県坂戸市坂戸の大山講」

坂戸では、大山講が夏祭りに付帯する行事と位置付けられ、現在もなお社会的意義を持ち続けていることを指摘している。

浅野久枝「大山への成人登山習俗の広がり」

大山への成人登山の習俗を持つ地域の分布図を作成し、その特性について言及している。

金野啓史「大山の茶湯寺と東京都日野市高幡の茶湯石」

伊勢原市の茶湯寺の百ヶ日供養と類似する事例として高幡不動の茶湯石を挙げ、比較し、その関連について述べている。

鈴木通大（編）「大山信仰関係文献目録・解題」

大山信仰に関する80以上の文献を出版年順に一覧にし、一部に解題を加えている。

■ 作者

関東民具研究会は、関東近県の博物館・資料館の学芸員有志などで構成された団体である。従来は民具をテーマに共同研究を行っており、その成果を報告書にまとめている。2004年からは相模大山をテーマに研究会の開催などの活動を行ってきた。

参考文献

『相模大山街道』大山阿夫利神社 1987 [K17. 64/29a]

『大山信仰』圭室文雄編 雄山閣出版 1992 [K17. 64/33] [163. 1/102]

『富士・大山信仰』西海賢二著 岩田書院 2008 [K17. 64/54]